

第41回 スギ花粉症とダニによる鼻炎に対する舌下免疫療法

2014年にスギ花粉症、2015年にダニによる鼻炎に対して舌下免疫療法が保険診療として開始され、当院でも実施しています。今回は、当院での治療経過を含め、舌下免疫療法につきご報告いたします。対象となる患者さんは、成人と12歳以上の小児で、現在12歳未満のお子さんには将来的に認可される予定です。

1. 舌下免疫療法の対象は？

アレルギー性鼻炎では、初期療法、軽症～重症によらず全ての患者さんが治療可能です。一般的な治療で効果不十分な患者さん、薬物による眠気などの副作用がある患者さんが良い適応です。治療期間は3～5年が推奨されています。

舌下免疫療法を行う意義は、①鼻炎や喘息の自然経過を根本から改善できる ②免疫療法によりアレルギー特異的な免疫反応を抑制し、体質改善効果がある ③治療効果が長期間継続し、薬物の使用量を減らすことができ、眠気などの副作用がない、ことが挙げられています。下の表は、気管支喘息での免疫療法と一般的なステロイド吸入療法の比較です。(永田真 アレルギー65(7)908, 2016)

	(舌下) 免疫療法	吸入ステロイド療法
喘息症状改善	○	◎
合併する鼻炎の改善	◎	×
合併する結膜炎の改善	○	×
ステロイド減量効果	○	—
気道過敏性の改善	○	◎
喘息発症の抑制	○	?
小児喘息の寛解を促進	○	?
新規のアレルゲンによる感作の抑制	◎	×

免疫療法はアレルギー性鼻炎では将来の気管支喘息の発症を予防でき、また、現に気管支喘息がある場合は症状を改善します。他のアレルゲンへの新規感作の予防効果も認められています。

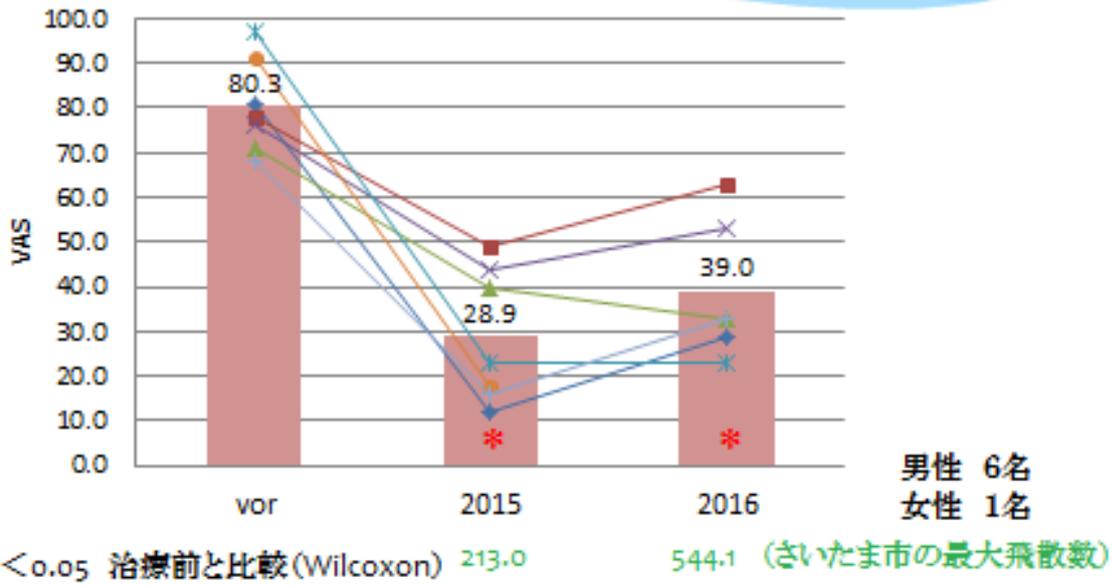
2. 舌下免疫療法の効果

以前の「かわら版」でも述べましたが、2009年の東京都福祉保健局による200名規模のスギ花粉舌下免疫療法の検討では、1年8カ月間の治療により73%に症状の改善が認められたと報告されています。ダニ舌下免疫療法の臨床研究でも、1年間の実施で総合鼻症状薬物スコア(総合鼻症状スコア(くしゃみ、鼻汁、鼻閉の3項目をその重症度に応じてスコア化し合計したスコア)と薬物スコア(スギ花粉症症状を

緩和するために服用した抗ヒスタミン剤等その使用量に応じてスコア化し合計したスコア)の合計点数で、鼻炎等のアレルギー症状の改善度を計測するために用いられる指標です。)が有意に改善しました。

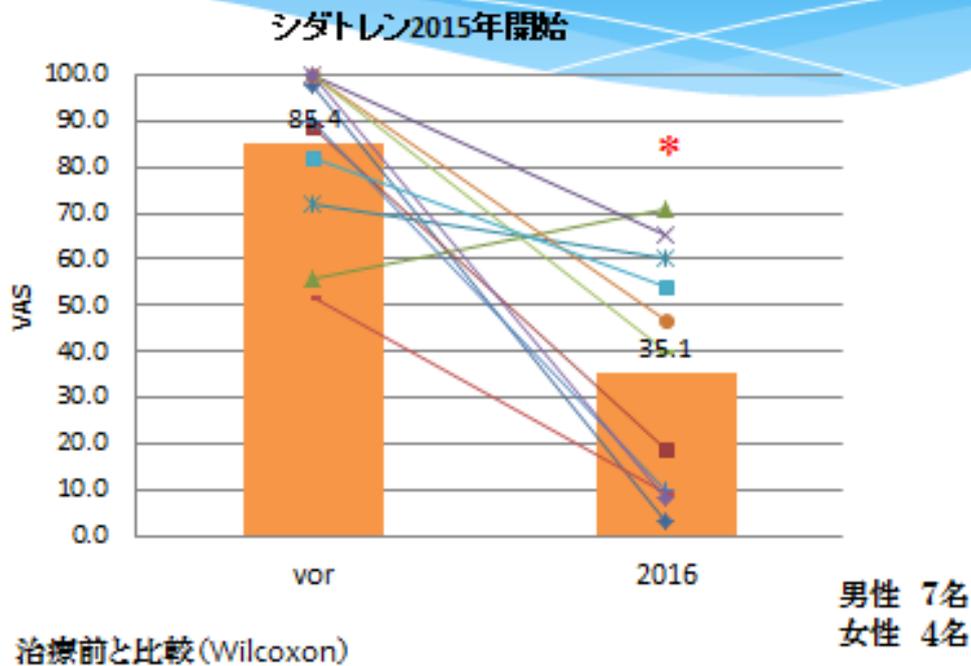
シダトレンの効果 2年間

シダトレン2014年開始



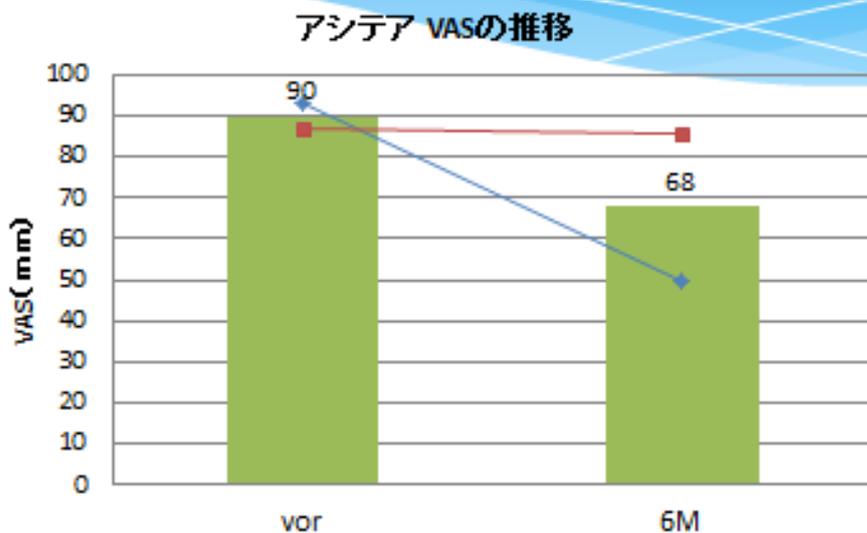
(上の図)は、当院でスギ花粉症の舌下免疫療法(シダトレン)を内服されている方のうち、2014年に開始し、2シーズンが経過した7名の方の経過です(棒グラフは全体の平均、折れ線グラフは各患者さんの経過)。治療開始前と比べて、2015年、2016年では有意に自覚症状のVASスコアが改善しています。(VASは最悪の症状を100、症状が無い場合を0、として、患者さんにアンケートを実施したものです)2015年より2016年のスギ花粉飛散数が多く、2016年のVASがやや悪化していますが、それでも治療開始前より症状は改善されていることが分かります。

シダトレンの効果 2015年開始の患者さん



(上の図) は、昨年 (2015年) から開始して1シーズン経った11名の方の臨床経過です (棒グラフは全体の平均、折れ線グラフは各患者さんの経過)。今年 (2016年) は飛散数が多かったにも拘わらず、治療開始前より有意に改善していることが分かります。

アシテアの効果(患者VAS)



(上の図)は、ダニの舌下免疫療法(アシテア)を開始した2名の方の経過です(棒グラフは全体の平均、折れ線グラフは各患者さんの経過)。まだ患者さんが少ないですが、6ヶ月で効果を実感できている方も見られます。

なお、治療費ですが、3割負担での薬剤費(1日当たり)は、スギ舌下免疫療法は約30円、ダニ舌下免疫療法は約60円です。

3. 舌下免疫療法の安全性(舌下免疫療法の実際と対応(日本鼻科学会))

従来 of 皮下注射と比べて、舌下免疫療法はアナフィラキシーなどの重篤な副作用は少ないことが知られています。海外の研究で、66試験の舌下免疫療法の全身反応を調べたところ、重症の全身反応は0.0014%の出現率でした。その中で最も多かったのは気管支喘息でした。アナフィラキシーの発生については、約1億回の投与で1回の稀な頻度でしたが、死亡例の報告はありませんでした。

頻度の高い副作用は、舌下腫脹(1.9%)、口内炎(1.9%)、咽頭搔痒感(1.9%)、口腔内腫脹(1.5%)などでした。もしこれらの症状が自宅で出現した場合は、抗アレルギー薬を速やかに内服したうえで医師にご相談ください(診療時間中に電話で結構です)。

4. 舌下免疫療法か皮下免疫療法か

アレルギー性鼻炎(スギ、ダニ)では、両方の治療が保険適応になっています。気管支喘息(ダニ・ハウスダスト)では皮下免疫療法だけが現時点で保険適応になっています。

舌下免疫療法は、年間を通じた医療費がやや高い(毎日の舌下が必要なため)ですが、注射の痛みはありません。また、維持期となれば最少で3カ月に1回の通院ですみます。皮下免疫療法は、医療費は舌下免疫療法より安いですが、月に1回程度の注射が必要となります。詳しくは外来で医師にお尋ねください。